

# 手術支援ロボ、人材育成など

## 震災26年、医療産業都市 新段階へ 次世代技術 神戸が発信

医療関連の企業 研究機関  
が集まる神戸・ポートアイ  
ランド。「神戸未来医療構  
想」が本格始動する。20  
20年8月撮影



手術支援ロボット「hinotori」(ヒノトリ)。医師が操作に習熟するための施設が開所し、実演があった。2020年12月、神戸市中央区港島南町1

神戸医療産業都市で今春、次世代医療を支える取り組みが本格始動する。昨年、待望の大型医療機器として実用化された手術支援ロボット「hinotori(ヒノトリ)」の高機能化が柱。神戸大と関連企業が連携して医療機器の開発と人材輩出を加速し、第2、第3のヒノトリ創出も目指す。(横田良平)

阪神・淡路大震災で傷ついていた地元経済を再生するた  
め、神戸市が進めてきた同  
都市が新たな段階を迎えて  
いる。神戸大や市、企業が  
参加する「神戸未来医療構  
想」。2019年度から10  
年計画で、前半5カ年の  
総事業費は14・5億円。う  
ち9・3億円を国の交付で  
賄う。ポートアイランドに  
ある神戸大病院国際が「医  
療・研究センター(ICC・  
RC)」を共同研究や人材育  
成の拠点とする。

ヒノトリは、医療用ロボ  
ット手術のデータを収集  
し、蓄積し、AIが解析する  
システムを開発。ヒノトリ  
に熟練医師の執刀手術を学  
ばせ、技術継承につなげる

活用も期待する。  
ICCRCでは今後、ヒ  
ノトリを使った遠隔手術や  
医療用の超高精細「8K」  
搭載カメラなどの開発が進  
む。血液検査から最適な手  
術法を探る個別化医療も推  
進し、医師や患者の負担軽  
減に寄与する。

神戸大は、革新的な治療  
器具の実用化も図る。手術  
後の止血などに使い、体内  
に留まる予定だ。

### 裾野の拡大なお課題

手術支援ロボット「hinotori(ヒノトリ)」を筆頭に、神戸医療産業都市で実用化される製品やサービスが目立ち始めた。

IT企業の一社、タプレットインクは、タブレット端末を使って認知機能を測定するソフトを開発、販売している。医療ベンチャー、T-ICUは専門医が足りない集中治療室(ICU)

で溶けて吸収されるマグネシウム製クリップの製品化などを視野に入れている。

また、医療と工学に精通して医療現場の課題を解決できる人材の育成にも着手。

21年度、大学院の研究所を横断するデジタル医工創成学コース(仮称)を開発。

26年度には医学部内に生命・医療創成学科(仮称)を設置する予定だ。

を遠隔支援するシステムをつつた。

産業ガス大手エア・ウオーター子会社のエアスペースは、虫歯などで失った神経を再生する治療を実用化。神戸医療産業都市推進

機構の拠点の一つでは昨年11月、白血病などの治療薬「キムリア」の製造をアジアで初めて開始した。

ただ、構想提唱から22年を経て医療関連の約370社・団体が集積した「互

社・団体の集積は神戸市内総生産の3%程度。企業の拠点の多くは研究が目的で、地域経済を支える産業の創出はなお課題となっている。

未来へ 3  
1月16日 神戸新聞分

登校最終日。

自分達の未来を切り開く2月を迎えます

さあ 闘え!!

未来へのスタートを手に入れよう

君達の力を時代が要求している。